



都心居住のあり方を考える。

MEMBER of 2015  
 Prof. Yukio NISHIMURA  
 Assistant Prof. Shin NAKAJIMA  
 D1 Benika Morokuma  
 M2 Masahide SHIBUYA  
 M2 Takane IMAGAWA  
 M2 Yukito KARASAWA  
 M2 Akiho HANO  
 M1 Chengkai WANG  
 M1 Takēshi KUROMOTO  
 M1 Megumi HAMADA  
 M1 Akira MORITA

## 都心居住とは × そのまちらしさの探求

2014年度、神田プロジェクト発足。そもそもの疑問は、「豊かな、望ましい都市生活のあり方とは何か」。そして「まちらしさとは何なのか」であった。

たどり着いたフィールドは、旧神田区の範囲。ここには、豊かな地域資源や地域のつながりが強く存在していた。自分の住む東京の中心たる神田に、なぜ豊かな生活があるのか、神田らしさとは一体何なのか。

俯瞰的に調査し、勉強会や議論を重ねる中で、神田を「人・産業・空間」から分析する視点が生まれた。この視点から、「都心居住のありかたを考える」探求が始まった。地域資源の見方を得た神田PJは、2015年度には狭い範囲にフォーカスし、実践的活動を行うこととした。



## 神田、そして多町二丁目とは

神田は東京都心のビジネス街でありながら、路地や老舗、濃密な人間関係といった下町情緒の残る稀有な地域である。神田祭に象徴される、「神田っ子」たちが誇りを持って暮らしている。多様な界隈を持ち、一口に神田といってもその姿は様々ではない。中でも神田多町二丁目は、そういった神田の特徴を凝縮したような町である。神田青物市場の発祥・中心として栄えた歴史をもち、神田の中心だと多町人は自負する。

2015年度は、そんな多町二丁目でも実践活動を行った。



## 2015年度活動「冊子制作を通じた地域資源の発掘と20年後の担い手づくり」

### 神田暮らし調査

多町の豊かな資源を把握すべく、資料調査、地図作業、まちびとへのインタビューなどを展開。

### まちあるきツアー開催

まちの魅力や、馴染みの薄かった新住民に紹介し、関わるきっかけを作るため、まちあるきツアーを開催

### 地域情報誌多町 Zine 制作

調査によって発掘された地域資源をさらに広く紹介する冊子を、住民と協働して作成。今後配布していく。

神田多町を対象とした界隈情報誌

「多町 Zine」

の製作を通じて...

地域資源の  
発掘

20年後の  
担い手づくり

を実施！

## 神田 PJ 2015 年度の活動記録

2014年度神田PJ発足 テーマ「都心居住のあり方を考える」→まず「人」に着目し、研究・実践

### 4 ● キックオフ町歩き

### 5 ● 神田祭調査・見学

神酒所や祭り見学場所などハレの空間を調査



公開審査会で活動計画をプレゼン、当選



### 6 ● 千代田まちづくりサポート 審査会・助成決定

### 7 ● 神田暮らし調査開始 (17名にインタビュー)

### 8 ● 一ハマルシェでお手伝い

### 9

### 10 ● 「超多町探検」開催 ● TATにて「ウチクル」設置

新住民向けのまちあるきツアー「超多町探検」を主催、4つの時代別に資源を紹介



情報収集の実験のため、都心キャンパイベントにて情報センター「UCHICUL」設置



### 11 ● 千代田まちづくりサポート 中間報告会

### 12 ● 「超多町パーティ」開催 ● 藤森照信先生勉強会開催

ツアーで築いたつながりの強化のため、まちを語り合うパーティを地元酒場で実施



### 1 ● 多町 Zine 取材開始 ● 小藤田勉強会

神田の看板建築に関する講演会を主催



多町の地区計画を、区職員の小藤田氏と学ぶ



### 2

### 3 ● 千代田まちづくりサポート 最終報告会

完成した多町 Zine をおひろめし、今後の展開をともに話し合う成果報告会を実施



### 4 ● 多町 Zine おひろめ会開催

## 地域情報誌「多町 Zine」を発行



新住民が多町の地域資源に気づき、まちへと関わるきっかけ作りのための地域情報誌「多町 Zine」を作成。あまりある資源を「信仰」「地域のつながり」「産業」「誇り」「日常」の5ストーリーで紡いでいく構造とした。住民の寄稿やインタビュー記事など、多様な視点から資源に着目することで、住民がそれぞれに資源を捉えることを目指した。

## 2016 年度の予定

以下の方向性で、2016年度も活動を継続する。

### ○ 枠組みの再編成：周囲を含めた範囲の拡大

2015年度は多町に絞り、関係を築きながら高い密度で調査・実践を行った。今後は小学校区や地区計画区域、神田全体へと再度ズームアウトし、多町の位置づけをさぐりつつ、資源の共有方法を探る。

### ○ 関係性の再構築や持続性

住民が激しく入れ替わる中、関係を築いてきた住民から新たな住民など多様にある中で、関係性を新たに構築するプロセスとは何かを把握する。PJが関わった後に地域が担っていく可能性をさぐる。

### ○ 神田全体のスケールで分野別の探求

神田全体を捉える視点を持ちつつ、バブル期の空間変容、地区計画の経験、学校をめぐる環境など、フィジカルな空間を分析する。定期的に勉強会を継続する。

### ☆ 老舗本による活動の整理・発信

神田学会と共著により、神田の老舗に関する書籍を執筆する。今までの活動を著書にまとめ、発信する。